

# 「没後15年 平野遼展」開催報告及び展覧会・文献歴 (1998-2007年)

高 杉 志 緒

“15th Posthumous Retrospective Exhibition of Ryo HIRANO  
(Painter, 1927-1992)” and a Chronology of Exhibitions,  
Restrations and/or Publications (1998-2007)

by  
Shio Takasugi

キーワード：平野遼、画家、回顧展、展覧会、文献歴

## 1. はじめに

平野遼（ひらの・りょう 1927年～1992年）は、昭和2年大分県佐賀関町（現大分市）に生まれ、同年に福岡県八幡市（現北九州市）に転居。第二次世界大戦前後の社会的混乱期に青春を送りつつ、独学で画業を志した。昭和24年（22歳）、画家になる決意をもって上京するが、就職先の倒産もあって翌年帰郷。その後、没年まで一貫して北九州市を活動の拠点とした画家である。

作品の主な所蔵先を挙げると、公立美術館では北九州市立美術館、下関市立美術館（油彩16点、水彩10点、ペン画2点、合計28点）、福岡市美術館（西本コレクション：油彩26点、水彩3点、ペン画7点、版画2点、合計38点）、田川市美術館（油彩2点、ペン画1点、合計3点）、大分県立芸術会館（油彩1点）。私立美術館では、財団法人井後記念陽山美術館（鹿児島市）、笠間日動美術館（笠間市。油彩2点、水彩1点、合計3点）、財団法人池田二十世紀美術館（伊東市。油彩2点、水彩1点、ペン画1点、合計4点）、石橋財団石橋美術館（久留米市。油彩1点、水彩2点）である。

特に下関市立美術館では、1991年に「平野遼展—光と線の交響—」が開催され、これが最期の公立美術館で行った個展となった。その展覧会図録には、以下のような画家自身の言葉が記されている。

「一人の人間が確実に視えてくるのは、この世から消えて無に還ってからだ。

骨になって生身の人間が丸ごと、鮮やかに視え、懐しいものさえ漂ってくるのは、究極の詩

であり抽象の極地であろう。

眼に見える現象を超えて、更に深く、存在は不可視の地中に埋没する。

蟻が地底に巣を造り、うごめきながら生命の営みを続ける姿に似ていないか、私はそれを掴み取って示したい…。」(後略)(平野遼「輪郭から内部へ」『平野遼展—光と線の交響—』下関市立美術館、1991年7月)

この文章から、平野遼は絵画という媒体を通して「眼に見える現象を超え」た、「不可視」の「生命の営み」を示そうとした画家であったことが分かる。同時に、自分の生前から常に「死」を意識して創作した画家であったことも窺えよう。

2007年は、画家が没して満15年となる。そのため、平野遼夫人である平野清子氏が主体となって、「没後15年 平野遼展」が開催されることとなった。筆者は、平野遼展(1997年、北九州市立美術館)の際、嘱託学芸員として展示補助に携わったことを端緒として、清子夫人主催の展覧会開催の展示〔水彩・素描展—本人の遺言による—(1998年、北九州市立美術館アネックス市民ギャラリー)、平野遼展(2000年、由布院空想の森美術館)〕を担当。また、平野邸アトリエ現存作品調査(2005年度、北九州市企画政策室主催)には、山根康愛氏(当時北九州市職員)の紹介で調査員の一人として、三満田巧氏と共に、油彩画を中心とした作品の調査・整理に携わった経歴を持つ。そのため、「没後15年 平野遼展実行委員会」の一員として社会活動を行うこととなった。

そこで本稿では最初に「没後15年 平野遼展」開催報告を行い、資料編として「平野遼展覧会・文献歴(1998-2007年)」を掲載する。資料編は、図録である『平野遼展』(北九州市立美術館開催、平野清子発行、1997年)以降、詳細な展覧会歴が作成されていないためである。但し、筆者が記録した以外にも、各地の画廊やギャラリー等で作品展示が行われた可能性は高い。お気づきの点等、ご指摘頂ければ幸いである。

## 2. 「没後15年 平野遼展」開催報告

### 2・1 開催日程等

- ・会期：2007(平成19)年10月31日(水)～11月4日(日) (合計5日間)
- ・主催：没後15年 平野遼展実行委員会 代表者：平野清子  
展示企画：平野清子、高杉志緒  
展示企画補助：花田伸一(2007年10月以降参加)、三満田巧  
会場：小倉井筒屋(新館9階パステルホール)  
搬送・展示：田中美術運送店 印刷物デザイン：春高デザイン
- ・後援：北九州市

## 2・2 作業日程等

- ・2007年10月27日（土） 借用先より作品搬出・保管
- ・2007年10月29日（月） 作家アトリエより作品搬出
- ・2007年10月30日（火） 9時～18時 作品梱包荷解き・展示・光量等調整作業
- ・2007年10月31日（水） 10時～20時 開場
- ・2007年11月1日（木） 10時～20時 開場
- ・2007年11月2日（金） 10時～20時 開場
- ・2007年11月3日（土） 10時～20時 開場
- ・2007年11月4日（日） 10時～18時 開場  
18時～21時 撤収作業、21～22時作家アトリエへ返却
- ・2007年11月5日（月） 作家アトリエへ作品返却整理
- ・2007年11月6日（火） 借用先へ作品返却

## 2・3 出品作品報告：合計 80 点

油彩（24点） アクリルボード画（3点） 水彩・ペン画・素描（37点）

墨画（1件2点） 絵付陶器（6件11点） 作家生前愛用品（2点） 作家写真（1点）

（油彩1点を除き、出品作品は全て作家アトリエ蔵）

## 2・4 入場者数報告：合計 1534 名

10月31日（火曜日） 316名            11月1日（水曜日） 237名

11月2日（金曜日） 272名            11月3日（土・祝） 354名

11月4日（日曜日） 355名

## 2・5 雑誌、新聞等 主要広報物

有料雑誌2件（①②）、無料配布物2件（④⑤）、市広報1件（③）、新聞報道2件（⑥⑦）

①木原千佳；肖像—第6回 平野清子，coyote，No.21，（株）スイッチ・パブリッシング，pp. 202-203，2007.9.10

②川口美保；平野遼の仕事、その究極の詩，SWITCH，vol.25No.10，（株）スイッチ・パブリッシング，pp.134-135，2007.9.20（作品カラー図版「裵い」「像」「爆発」「歩く人」合計4点）

③没後15年 平野遼展，北九州市政だより，北九州市，2007.10.15

④北九州が生んだ画家 没後15年平野遼展，リセット 北九州，vol.33，（株）リセット出版，pp.40-41，2007.10.26（作品カラー図版「自画像」「漁婦たちナザレにて」「歩く人」アクリル画2点、合計5点）

⑤没後15年 平野遼展, スマイル通信, No.178, 株式会社井筒屋, p6, 2007.11

(作品カラー図版「自画像」「ナザレの漁婦たち」合計2点)

⑥長谷川容子; 「魂の画家」平野遼さん きょうから回顧展, 「毎日新聞」, 25面(北九州版), 2007.10.30(朝刊)(白黒写真)「陶酔の時」(手前)など飾り付けが進む会場

⑦平原奈央子; 展覧会 没後15年 平野遼展 「内」を凝視して, 「西日本新聞」, 14面, 2007.11.2(朝刊), (白黒図版)「陶酔の時」

## 2・6 来場者感想

### 2・6・1 来場者インタビュー(任意、回答者4名)

「人間の内面を描いているということが伝わってきた。」(50代男性)

「初めて知った画家。線が美しい作品の数々だと思った。」(50代女性)

「美大にも行かず、独学でこれだけの作品を遺したことに驚いた。」(20代女性)

「平野遼は知っていたが、唐津焼の絵付けは初めてみた。」(50代女性)

### 2・6・2 『来場者感想ノート』記述(4名記入・抜粋)

「魂のある素晴らしい絵を見せていただきました。語り継ぐべき作品と遼さんの存在を見せ



図1：展示作業(10月30日)



図2：光量調整作業(10月30日)



図3：会場風景(入口付近・11月4日)



図4：会場風景(中央部分・11月4日)

て頂いて本当に良かったです。」

「今日は、展覧会を見て一番気に入ったのは歩く人で、本当に歩いているみたいで気に入りました。私が描く絵は遠くから見たら良く分からないけど平野さんののは遠くから見ると分かるのが多くて私もそういう絵を描いてみたいです。」

「遼さんの絵をとて大きな規模で観賞でき、本当に嬉しく思います。ぐっとくるものがあります。どうしてこのように深く深く突き詰めることが出来るのか。

その事を考えるだけで涙が出そうになります。ありがとうございました。」

「独特な絵風を作られました。抽象より原形をとどめた作風が素晴らしいと思いました。

小倉出身の者として誇りを覚えました。」

### 3. 平野遼 展覧会・文献歴（1998－2007年）

#### 凡例

左欄には、展覧会・催事等、一行開けて出版物を記し、右欄には展覧会等に関する記事・報道を記した。展覧会・催事については、開催順に記した。展覧会については、展覧会名（主催、企画（主催、企画が会場と同じ場合は省略）、会期、会場・都市名）主要展示作品、の順に記した。展覧会名、冒頭◎印は個展（全館展示、特別企画展示等）、○は個人コーナーが設けられた展示（併設コーナー、2人展、併設展等開催の場合も含）に付け、団体展中の展示は無印とした。催事（講演会等）には#を、作品調査・アトリエ所蔵作品修復等に関しては\*印を付けた。

文献（出版物）は刊行年順に掲載した。なお、出版物における冒頭の印は以下の通り。 □：作家・作品（著作）等に関する記事（定期刊行物、画集掲載等含）。■：作家・作品（著作）等を主題とした単行本（画集・評伝含）。◇：作家の作品が商品化された出版物（絵葉書、カレンダー等）。

報道については、▽：テレビ等メディア放映。▼：その他、平野遼に関する報道記事等（作品保存運動等を含む）。文中の敬称は省略させて頂いた。

年	月	展覧会・催事・出版物・報道等	展覧会関連記事・報道
1998	3	姉妹都市の美術館所蔵名品展－水平線のかなたに（3.20～6.20 プサンメトロポリタン美術館・釜山）「黒い吐息」（下関市立美術館蔵、油彩1点）展示。	
平成 10	8	館藏品展No.61（8.19～9.8 下関市立美術館・下関 近現代の洋画）「重い白（シシフォス）」（油彩1点）展示。 北九州市立美術館友の会10周年記念 民間コレクション名品展（8.25～9.13 北九州市立美術館・北九州）「電車を待つ」（油彩1点）展示。	
	9	館蔵の優品展（9.1～9.8 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）「女性2人」（ペン1点）合計2点展示。 20世紀美術－東と西－ PART II 水彩・デッサン・版画－（9.1～11.30 池田20世紀美術館・伊東）「トルコの娘」（水彩1点）展示。	伊豆新聞10月18日 林紀一郎「池田20世紀美術館コレクションより 20世紀美術－東と西－PART II 水彩・デッサン・版画(4)－」図版「トルコの娘」

	<p>○秋の常設展（9.5～11.23 北九州市立美術館・北九州郷土の作家 特集：平野遼）「笛」「門司港停車場」「触花」他（油彩10点）、「冬の朝」（蠟画1点）、合計11点展示。風景画展（9.12～9.27 笠間日動美術館・笠間）「風景」（油彩1点）展示。</p> <p>北九州とその周辺の画家たち展（9.30～10.6 小倉井筒屋新館美術画廊・北九州）「河沿いの家」「形象」他（油彩4点）、無題（蠟画1点）、「父子像」他（水彩2点）、ペン3点、合計10点展示販売。</p> <p>11 ◎～本人の遺言による～ 平野遼 水彩・素描展（11.3～11.15 主催：平野清子 展示企画協力：高杉志緒 北九州市立美術館アネックス市民ギャラリー・北九州）「奇術師」「われらはどこへ行くか」「コーカサスの朝」他作家本人の遺言による水彩27点、「修羅」（水彩）、「歩く人」（ペン）他32点、合計57点展示。</p> <p>近代洋画家の自画像展（11.19～11.26 笠間日動美術館・笠間）「自画像」（油彩20号1点）展示。</p> <p>▼読売新聞1998年1月12日（夕） 養父克彦「手帳 平野遼展の図録完成 ファンも寄稿、画業たたえる」</p> <p>□平野遼「湿地帯」「表紙作品「湿地帯」平野遼 昭和35（1960）年』『芸館だより』No.141、大分県立芸術会館、1998年2月 カラー表紙「湿地帯」（油彩1960年1点）掲載。</p> <p>□『ふるさと美術誌－福岡市を中心に 福岡美術戦後物語』（福岡市美術館、1998年8月）、「第14章 画廊活動と福岡市彫刻のあるまちづくり事業 参考図版」白黒図版「我が内部に」（油彩、1987年 福岡市美術館蔵、p.120）。</p> <p>◇コスモ証券カレンダー（1998年9・10月）平野遼「ブランコ」（原画油彩、制作年不詳）。</p> <p>□「平野遼遍歴 疾走する哀しみ」カラー図版「（仮）自画像」（1989年）「バスの中で」「M停車場」「（仮）モロッコの群像」（1991年）ペン5点、「グルジアの男」（1989年）「生誕」（1990年）水彩2点、pp.112-117。高杉志緒「眼は掴み、手は走る」カラー図版「歩く人」（ペン・水彩）pp.118-119。『SWITCH』Vol.16No.9（㈱スイッチ・パブリッシング、1998年10月）。</p> <p>■『平野遼水彩・素描 疾走する哀しみ』（㈱スイッチ・パブリッシング、11月（合計158頁）。カラー図版：水彩・ペン・素描、合計88点、及び作家原稿・絵入葉書11点掲載。</p> <p>◇11月、絵葉書（10枚1組、原画「歩く人」「老水夫の肖像」「奇術師」「群像」「サマルカンド」「夜の部屋」「挽く牛」「M停車場」「膨張する人」「ホテルのメイド黒人の女」、紙製カバー内扉・平野遼作詩「疾走について」）『平野遼水彩・素描 疾走する哀しみ』掲載作品から選んで制作・販売（㈱スイッチ・パブリッシング）。</p>	<p>読売新聞11月9日（夕）秋山敬「人像を解体・凝集させる抽象世界 平野遼「水彩・素描遺作展」」図版「歩く人」</p>
1999	1 館藏品展No.62（1.5～1.31 下関市立美術館・下関 香月泰男と近・現代の洋画）「昆虫記」（1990年油彩1点）展示。	

平成 11	<p>2 館蔵の優品展（2.9～2.14 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）「女性2人」（ペン1点）合計2点展示。</p> <p>3 春期館蔵品展—新収蔵品を中心に（3.16～3.22 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）「女性2人」（ペン1点）合計2点展示。</p> <p>4 館蔵品展No.63（4.1～4.18 下関市立美術館・下関 近現代の洋画・版画）「重い白（シシフォス）」（油彩1点）展示。</p> <p>5 館蔵品展—人物をめぐる表現—（5.18～5.30 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）展示。 渡辺穰コレクション名品展（5.19～5.30 北九州市立美術館・北九州）「木のある風景」「赤の馬」（油彩2点）、「坐る人」「人物」（水彩2点）合計4点展示。</p> <p>10 所蔵品図録出版記念 西本コレクション展（10.26～11.28 福岡市美術館・福岡）「麻里の像」（油彩1点）展示。</p> <p>◇平野遼 1999 カレンダー花（春高デザイン、西部ガス発行）（4月アザミ、5月アヤマ他、原画水彩12枚） □「絵画紹介「空を見る女」（53.0×35.5cm・1975年頃）平野遼」資料提供：日動画廊『西日本文化』No.355（財団法人西日本文化協会、1999年10月）カラー口絵「空を見る女」（油彩1点）掲載。</p> <p>□『福岡市美術館所蔵品目録 西本コレクション』福岡市美術館、1999年10月 カラー図版p.16「焦土の眼」（油彩）白黒図版 pp.134～143「焦土の眼」「三角形の風景」（1963年）、「風景」（1966年）他（油彩26点）、「坐る」「たしかに形が」（1992年）他（水彩3点）、「砂漠を行く」「露天市」他（ペン7点）、「ムーレイドレスの少女」他（版画2点）、合計38点掲載。</p>	
2000  平成 12	<p>1 パレット展（1.4～4.9 笠間日動美術館・笠間）「自画像」（制作年不詳）、「風景」（油彩2点）、作家使用パレット展示。 冬の常設展（1.14～3.31 北九州市立美術館・北九州、近代美術コーナー）「群像」（1964年）「自画像」（1955年）油彩合計2点展示。</p> <p>2 ○館蔵品展No.67（2.29～4.9 下関市立美術館・下関 平野遼と宮崎進 展示企画:濱本聰）「凍土」「黒い吐息」「鳥」「昆虫」「いちご売り」他（油彩16点）、「Tの像」「群像」（1998年）「果樹園で見た女」他（ペン・水彩11点）合計27点展示。</p> <p>3 ◎春の企画展 平野遼の世界（3.28～7.2 陽山美術館・鹿児島）「群像」「（1981年）」「桜島」（1981年）「モロッコフェズの男たち」他（油彩25点）、「やみの風景」「歩く人」（ペン）他、「森の中の劇場」（水彩）他（ペン・水彩13点）、「舟の人々」（1975年）「風景」他（水墨画5点）、年賀状（1975～1990年14点）合計57点展示。</p>	<p>□濱本聰「館蔵品展から② 平野遼と宮崎進」『潮流』No.61 下関市立美術館、2000年1月、表紙カラー図版「黒い吐息」（油彩）、白黒図版「凍土」「鳥」「昆虫記」「危機に充ちた平穏」「重い白（シシフォス）」</p>

- 5 ◎平野遼展（5.15～5.26 夢土画廊・東京）「夜の花」「亡びゆく寓話」「祓い」「樹（冬）」「深夜の踊り」（1991年）「深呼吸する線」（1992年）「自画像」（制作年不詳）（以上油彩8点）、「奇術師」「立像」「絵画」他水彩21点、「凍る花」「モロッコの群像」他（ペン・素描5点）、合計34点展示。
- 6 ◎平野遼展（6.1～6.18 足立山麓ギャラリー・北九州）「屈折した内部」「ひとり」（水彩）他展示。  
夏の常設展（6.10～7.30 北九州市立美術館・北九州近代美術コーナー）「門司港停車場」「立花大慶師像」（1956年）油彩2点展示。
- 7 ◎平野遼展（主催：由布院空想の森美術館 展示企画：平野清子・高杉志緒 7.1～7.31 由布院空想の森美術館・由布）「自像」（1983年）「ギリシャの朝」「森の中」他（油彩13点）、「屈折した内部」「疾走」他（水彩9点）、「自画像」（1992年ペン1点）合計23点展示。
- 12 館蔵の優品展（12.5～12.24 田川市美術館・田川）「朝の群像」「青い混沌」（油彩2点）合計2点展示。
- （小説）秋山敬「断章 平野遼 一絵に殉じた異能の画家－（上）」『九州文学』通巻490号、九州文学社、1月本文 pp.99-112 白黒図版「編む女」（未完群像）合計2点掲載。
- （評論）秋山敬「断章 平野遼 一絵に殉じた異能の画家－（中）」『九州文学』通巻491号、九州文学社、4月本文 pp.27-48 白黒図版「鷺」（墨画）、「青い雪どけ」「自像」（1983年）、「内藤氏像」（1986年）以上油彩3点、合計4点掲載。
- （評論）秋山敬「断章 平野遼 一絵に殉じた異能の画家－（下）」『九州文学』通巻492号、九州文学社、7月本文 pp.33-55 白黒図版「歩く人」（ペン1975年）、「笛」（1948年）、「壁」「新しい世界へ」（1986年油彩）「モロッコの群像」（1992年墨画）、「絶筆（油彩）」、「溶ける人体」（1986年当時）「溶ける人体」（加筆後）合計7点（8図）掲載。
- 栗津則雄「人を描くということ－麻生、平野、鴨居の仕事から－」『月刊美術』No.298（株式会社サンアート、2000年7月）pp.45～48、白黒図版「爆発」（油彩1957年）、カラー口絵「群像」（油彩1992年）p.32、「自像」（油彩1983年）p.33、合計4図掲載。
- 秋山敬『評伝 平野遼』九州文学社、9月（合計188頁）カラー口絵「笛」「門司港停車場」「自画像」（1955年）、「作品 赤」（蠟画）、「像」（1956年水彩）、「青い雪どけ」「壁」「解体 朝の肖像」（以上油彩）、「歩く人」（ペン・水彩）、「唐津茶碗」「解体」「麻里像」「裸形の風景」「内藤氏像」「Tの肖像」「鳥は不安の只中にいた」（以上油彩）、「ノートルダム寺院にて」（水彩）、「群像」「自画像」（制作年不明・油彩）、「鷺」「モロッコの群像」（以上墨画）、「絶筆」（油彩）合計22点。
- 読売新聞5月17日（夕）「平野遼個展 東京・夢土画廊で始まる」
- 大分合同新聞7月17日（朝）清原保雄「月曜文化 峻烈な世界 平野遼遺作展」図版「自像」
- 読売新聞9月25日（夕）養「手帳 社会の暗闇を告発した異色の画家 平野遼 初の評伝を刊行 画業や生きざま描く」



		<p>□栗津則雄『NHK 人間講座 自画像を描くまなざし』（日本放送出版協会、10月）カラー口絵「自画像」（油彩、1955年、北九州市立美術館蔵）本文 pp.123-133 白黒図版「自像」（1983年）、「自画像」（1955年）、「自我像」（ペン1957年）、「裸形の風景」（1982年）、「解体」（1983年）合計5点。</p> <p>▽NHK 教育テレビ 栗津則雄「平野遼 ～研ぎ出された自我」『NHK 人間講座 自画像を描くまなざし』12.14（木）23:00～23:30 再放送 12.18（月）15:30～16:00</p>	
2001 平成 13	2 3 5 6 9 10 11	<p>春の常設展（2.24～5.20 北九州市立美術館・北九州）「昼と夜と」「内藤氏像」（油彩2点）展示。</p> <p>春期館蔵品展（3.6～3.25 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）展示。</p> <p>存在の軽さ!?（5.3～6.3 北九州市立美術館アネックス3階版画展示室・北九州）「むれ（闇のためのエスキース）」「動物園」（1970年）、「立像」（1969年）「腐食する人体」（1970年）ペン画合計4点展示。</p> <p>館蔵の優品展（5.16～6.3 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）展示。</p> <p>夏の常設展（5.26～8.26 北九州市立美術館・北九州）「自画像」（1955年油彩1点）展示。</p> <p>6 回想・アートの20世紀-38の美の軌跡-（6.1～8.31 財団法人池田20世紀美術館・伊東）38名中の作家に選ばれ作品展示。</p> <p>9 秋の常設展（9.1～11.18 北九州市立美術館・北九州 近代美術コーナー）「溶ける人体」（油彩1点）展示。 秘蔵コレクション名品展（9.13～10.8 北九州市立美術館・北九州）「風景」（蠟画1点）、「風景」（水彩1点）、「座る人」「人物」「自転車」（ペン3点）合計5点展示。 Dessin 展-素描・スケッチの魅力を探る-（9.26～10.6 金井画廊・東京）「裸婦」（2点）、「植木市の人」「女」水彩合計4点展示販売。</p> <p>10 ○平野遼展 ～西本コレクションを中心に～（10.16～11.18 福岡市美術館企画展示室・福岡）「焦土の目」「三角形の風景」（1963年）、「青年Oの像」、「海を見る女 ナザレにて」、「自像」（1986-89年）、「老水夫」（1990年）「村の子供」（1992年）他、油彩合計20点展示。</p> <p>11 冬の常設展（11.24～2002.2.3 北九州市立美術館・北九州 郷土の作家コーナー）「昼と夜と」「立像」（1979年）油彩合計2点展示。</p> <p>□西日本新聞 2001年1月13日 山本哲也「雪月花」（岡田武雄詩集・平野遼挿絵『風花幻想』紹介）</p> <p>◇ポスター「イムズ芸術祭 2001 9/19-11/4 Art Complex 生きたぶんだけ美しい」カラー図版「九州を代表する画家故・平野遼氏が愛用していたパレット」（デザイン：有限会社春高デザイン）</p>	

		<p>□栗津則雄「第12章 平野遼～研ぎ出された自我」『自画像の魅力と謎 自己をみつめた11人の画家たち』(日本放送出版協会、11月) カラー口絵図版「自画像」(1955年、北九州市立美術館蔵)、「自像」(1983年)、「自画像」(1992年)。本文 pp.143-154 白黒図版「赤」(1958年)、「冬の朝」(1960年)、「裸形の風景」油彩合計6点(注:『NHK人間講座 自画像を描くまなざし』2000年、改訂単行本)。</p>	
2002 平成 14	<p>1 ◎平野遼展－S氏コレクションによる(1.19～1.27 早良美術館うるゑ・福岡)「自像」(1952年)、「S氏の肖像」 「シルクロード プハラの風景」他(油彩14点)、「ミコノスの農家」 「作品」(1974年)「国東半島の馬」他(水彩5点)、「自像」(1952年)「群像」他(ペン4点)、無題(蠟画1点)、「幻影の人」(ガラス絵1点)、「釣り人」(陶板画1点)、「都井岬の馬」(水墨軸装1点)、「野外の物売り」他(版画2点)。及び「自画像」 「婦人像」、無題(未完1点)他(作家アトリエ蔵・油彩3点)、合計31点展示。</p> <p>3 館藏品展－郷土ゆかりの画家を中心に－(3.12～3.24 田川市美術館・田川)「朝の群像」(油彩1点)展示。</p> <p>5 近代の素描展(5.2～5.26 北九州市立美術館アネックス3階版画展示室・北九州)「古代の牛」(1960年)1点展示。 館蔵の優品展(5.21～6.9 田川市美術館・田川)「朝の群像」(油彩1点)展示。</p> <p>7 アトリエの隅から－近代作品による小品展(7.31～8.25 北九州市立美術館アネックス3階版画展示室・北九州)「笛」「赤の馬」(1968年)油彩2点展示。</p> <p>8 S氏コレクションから“馬”展(8.21～9.8 早良美術館うるゑ・福岡)「都井岬の馬」(墨画軸装1点)他展示。</p> <p>10 ○平野遼没後10年作品展(10.2～10.8 井筒屋新館7階画廊・北九州)「自画像」「若い女」「水鳥を見る母子」「坂の上のホテル」「垣根と農家」他、油彩・水彩合計25点展示販売。 ○冬の常設展「郷土の作家 平野遼の世界」(10.12～12.25 展示企画:花田伸一 北九州市立美術館本館常設展示室・北九州)「自画像」(1955年)「群像」(1964年)「昼と夜と」「溶ける人体」「立像」「日曜日の風景」「歩行者」「朝の肖像」「消滅する土地」「笛」油彩合計10点展示。 ○平野遼の版画・素描展(10.30～12.1 展示企画:花田伸一 北九州市立美術館アネックス版画展示室・北九州)「鬼」「酒」「動物園」他(水彩14点)、「洗濯する女」「犬」他(ペン5点)、「貌 抱擁」「貌 笑う子供」「貌 疾走する眼」(銅版3点)、「兄弟」「顔の列」(石版2点)、「自像」(コンテ1点)、合計25点展示。</p> <p>11 ○没後10年平野遼展(11.21～11.28 西日本新聞会館15階ホール 同時開催「福岡日動画廊開設24周年記念 第31回現代洋画展」)「冬が終わった」「移住者」「樹木」「青と白」他(油彩24点)、「エスキース」(蠟画1点)、「群像」(1973年、ペン1点)、「ナザレの女」他(水彩23点)、48点展示販売。</p>	<p>西日本新聞1月12日「文化短信 平野遼展－S氏コレクションによる」図版「坂本繁二郎の肖像」。</p> <p>朝日新聞1月24日「平野遼展－S氏コレクションによる」</p> <p>朝日新聞10月5日「平野遼さん作品展」写真(会場風景「自画像」他と来館者</p> <p>西日本新聞11月22日「人間の原風景描く 平野遼の没後10年記念展 福岡市」写真(会場風景)</p> <p>西日本新聞11月28日 夢幻庵「風車 ペンと蠟」</p>	

○平野遼作品展（12. 4～12. 27 北九州市立中央図書館・北九州）展覧会図録、関連図書、表紙絵等、約50点展示。

西日本新聞12月6日「「孤高の画家」平野遼氏 没後10年記念し作品展 図録など50点 小倉北区の市立中央図書館」像）他と来館者）

□谷伍平「洞穴の詩 平野遼没後10年」『ひろば北九州』No.193（北九州都市協会、2002年7月）pp.32～34 白黒図版「自画像」（油彩1955年）平野遼作詩「カタコンベ」（抜粋）、「生きていること」掲載。

□「連載第一回 やわらかな視線 平野清子」（カラー図版「M眼科にて」「ローテンプルグの歩道にて」「横を向く女」「新大阪駅にて」水彩画4点、pp.196～199）、川口美保「最後まで「視た」人」（pp.200-201）『SWITCH』Vol.20No.10、(株)スイッチ・パブリッシング、1998年9月20日

□濱本聡「館蔵品展から 没後10年・平野遼」『潮流』No.72（下関市立美術館、2002年10月）pp.6～7、白黒図版「凍土」「黒い吐息」「昆虫記」「危機に充ちた平穩」「重い白（シシフォス）」「路上の野菜売り」（油彩6点）、「群像」（ペン1点）合計7点掲載。

□「連載第二回 やわらかな視線 内藤武敏（俳優）」（カラー図版「バリのホテルでロビーにいる人々」「待合室にて」「サンドイッチを食う男」「サインする男」水彩画4点、pp.88-91）、川口美保「掴み取られた〈生〉」（pp.92-93）『SWITCH』Vol.20No.11、(株)スイッチ・パブリッシング、1998年10月20日発行。

■『平野遼書簡集 やわらかな視線』(株)スイッチ・パブリッシング、11月15日（合計223頁）カラー口絵「M眼科にて」「自転車と母」「ローテンプルグの歩道にて」「日動サロンにて」「リスボンの女」「新聞を読む男」「新大阪駅にて」「おやこ M眼科にて」（水彩8点）、絵葉書（水彩21通）掲載。

毎日新聞12月13日（夕）「新刊ジャック「やわらかな視線」平野遼書簡集」 図版「馬と人」

□「最終回 やわらかな視線 松永伍一（詩人）」（カラー図版「グラナダの女」「タイトルなし」（2点〈2人像〉〈歩く母子〉）「ライン下りの女」水彩画4点、pp.92～95）、川口美保「新しい歴史として」（pp.96-97）『SWITCH』Vol.20No.12、(株)スイッチ・パブリッシング、1998年11月20日発行。

■城戸洋『平野遼 青春の闇 平野清子聞書』みずのわ出版、11月25日（合計311頁）。カラー口絵「自画像」（油彩、1955年）、「青い雪解どけ」（油彩、1959年）、「作品赤」（蠟画、1958年）、「笛」（油彩、1948年）以上4点掲載。

□「10/2～10/12 平野遼1948-91年展」〔（白黒図版「亡びゆく寓話」「危機に充ちた平穩」「重い白（シシフォス）」（油彩3点、pp.85-86）中山とし子監修『名古屋画廊の60年』発行：中山真一、（1998年）12月。

		<p>◇絵葉書（8枚1組、原画・銅版画集『貌』1978年、「抱擁」「笑う子供」「不安な夜」「疾走する眼」「哭く子」「幼女と影」「手を広げる人」「太古の女」）として、北九州市立美術館「平野遼の版画・素描展」に寄せて制作・販売（㈱スイッチ・パブリッシング）。</p> <p>◇絵葉書（4枚1組、撮影・柳原一徳、アトリエ風景、書棚、イーゼル、絵の具）を『平野遼 青春の闇 平野清子聞書』に寄せて制作（みずのわ出版）。</p>	
2003 平成 15	<p>1 ○没後10年・平野遼 館蔵品を中心に（1.4～2.2 展示企画：濱本聰 下関市立美術館・下関）「凍土」「黒い吐息」「路上の野菜売り」「憑かれた人」「昆虫記」「重い白（シシフォス）」「遠吠え」他（油彩16点）、「果樹園で見た女」「Tの像」他（水彩・素描12点）、作品合計28点、執筆原稿「輪郭から内部へ」展示。</p> <p>2 春の常設展（2.7～5.18 北九州市立美術館・北九州「近代美術」「コーナー」「停車場」（1956年油彩1点）展示。</p> <p>3 春期館蔵品展（3.11～3.30 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）展示。</p> <p>5 館蔵の優品展（5.21～6.1 田川市美術館・田川）「朝の群像」（油彩1点）展示。</p> <p>春の常設展（5.24～8.24 北九州市立美術館・北九州「近代美術」コーナー）「自画像」（1955年）「群像」（1964年）油彩2点展示。</p> <p>6 ○開廊10周年 絵のころ・詩のころ 平野遼・松永伍一 二人展（6.10～22 足立山麓ギャラリー・北九州）「二重像」「夏の女」「売る女」「二人」（油彩4点）、「手相見と女たち」「母子像」「座る女」他（水彩5点）、「読む女」「ギターを弾く男」「大地」「風船」（ペン・水彩4点）合計13点、松永伍一作詩「平野遼の絵について」、松永伍一「バラの帽子」（油彩・コラージュ）「ダンス」（水彩・コラージュ）他と共に展示。</p> <p>9 C夫人肖像画 世界の巨匠29人に愛された女性（9.11～11.3 笠間日動美術館・笠間）「日動サロンにて H夫人」（水彩1点）展示。 館蔵の素描展（9.23～9.28 田川市美術館・田川）「女性2人」（ペン1点）展示。</p> <p>□長谷川智恵子（文・モデル）「平野遼 知らぬ間に描かれていた」『C夫人肖像画 世界の巨匠29人に愛された女性』（株式会社講談社、2003年9月）pp.79～81 カラー図版「日動サロンにて H夫人」（水彩1980年）掲載。</p> <p>▼読売新聞10月23日（夕）「孤高の美 記念館構想 画家・平野遼没後11年 地元・北九州のファン2億円募金運動」清原雅彦、山口美智子らの美術館建設企画案を報道。カラー図版「消滅する土地」（油彩）1点掲載。</p>	<p>□「そとら通信 館蔵品展紹介◆没後10年・平野遼」『潮流』No.73 下関市立美術館、2003年1月、カラー図版「鳥」（油彩1990年）。 読売新聞2月14日（夕）谷健太郎「没後10年・平野遼（下関市立美術館）」</p> <p>西日本新聞6月3日 詩人・松永伍一「文化 近況往来 故平野遼さんと「二人展」」</p>	

		<p>□轟良子「海峡の風 北九州の先人たち 23 平野遼「生きた証に」「後生に評価委ね」「修行僧画業」で宝物残す」『ひろば北九州』No.209（北九州都市協会、2003年11月）pp. 12～13 白黒図版「編む女」（油彩1980年）、「自画像」（油彩1955年）合計2点掲載。</p> <p>□高杉志緒「北九州と画家・平野遼」『西日本文化』No. 396、財団法人西日本文化協会、2003年11月、pp. 22～26 白黒図版「歩く人」（ペン1975年）、「(仮)自画像」（ペン・水彩、1989年）合計2点掲載。</p>	
2004 平成 16	1 2 4 6 8	<p>館蔵品展No.83（1.4～2.1 下関市立美術館・下関 没後30年香月泰男）「昆虫記」（油彩1点）展示。</p> <p>S氏コレクション「少女」展（2.4～2.29 早良美術館 ろうゑ・福岡）「幼女」（油彩）1点が展示される（他36名36作品展示公開）。</p> <p>開館20周年記念所蔵名品展 美術の森の散歩道（2.5～3.21 下関市立美術館）「重い白（シシフォス）」（油彩1点）展示。</p> <p>常設特別展 北九州市立美術館の所蔵品100選から（2.27～3.28 北九州市立美術館・北九州）「昼と夜と」油彩1点展示。</p> <p>春の常設展（4.3～6.13 北九州市立美術館・北九州 郷土作家コーナー「特集：北九州の洋画」）「絵画」（1965年）油彩1点展示。</p> <p>北九州美術1904-2004（6.5～8.1 北九州市立美術館・北九州）「内藤氏像」（1985年）油彩1点展示。 創作の秘密 画家のパレットと作品（6.19～8.29 笠間日動美術館・笠間）「風景」（油彩1点）、作家使用パレット展示。</p> <p>○夏の常設展「郷土作家コーナー 平野遼の絵画特集」（6.19～9.5 北九州市立美術館・北九州）「門司港停車場」「立花大慶師像」「微笑する女」「日曜日の風景」「溶ける人体」（1992年）他（油彩14点）、「自我像」（1957年）「男の顔」（1970年）他（ペン5点）、「冬の朝」（エンコスティック1点）、合計20点展示。</p> <p>◎街じゅうアート in 北九州 平野遼に会いに行こう 2004 夏（主催：NPO 法人創を考える会・北九州 会場：リーガロイヤルホテル小倉・NHK 北九州・アートカフェ・小倉井筒屋・観山荘別館・旧大阪商船・門司港ホテル・千草ホテル・サンレーグランドホテル・布アネックス）開催・展示。「疾走する馬」「騎乗を終って」「遠い形'92」他（油彩）、「ミコノスの風車」「風景1984」他（水彩）、「古城を出る女」「丘の上の村」他（版画）、合計約50点展示。</p>	<p>「同時多発美術館 in 北九州 2004 夏平野遼に会いに行こう」『モンタン』53号、ヒューマンエナジー研究所、2004年7月 カラー図版「立像」（1979年）「歩行者」（1965年）（油彩2点・北九州市立美術館蔵）西日本新聞8月7日「平野遼さんの作品展示 市内11ヶ所に50点 美術館目指す NPO 主催」朝日新聞8月22日「ホテルや百貨店の一角12ヶ所で「同時」作品展 平野遼氏の遺作50点」</p>

	<p>9 ◎平野遼展（9.4～9.12 足立山麓ギャラリー・三樹画廊・北九州）「疾走する馬」「騎乗を終わって」他・油彩・水彩・素描・版画他、足立山麓ギャラリー 27点・三樹画廊 42点、合計 69点展示。</p> <p>秋の常設展（9.11～10.24 北九州市立美術館・北九州近代美術コーナー「特集：光と影の表現」）「自画像」（1955年油彩1点）展示。</p> <p>10 にんげん・いろいろ－50の世界－（2004.10.1～2005.1.11 財団法人池田20世紀美術館・伊東）50名の作家に選ばれ作品展示。</p> <p>北九州市立美術館30年の歩み展「郷土ゆかりの美術家たち」（10.30～12.26 北九州市立美術館・北九州）「群像」（油彩、1964年）1点展示。</p> <p>□『下関市立美術館所蔵名品選101』（下関市立美術館、2004年2月）カラー図版「重い白（シシフォス）」（油彩1991年）p83掲載。</p> <p>▼西日本新聞2004年3月30日「田中丸コレクション 故平野遼氏作品 常設美術館を ～北九州市の市民団体～法人設立に始動 市の空き施設を活用へ」（創を考える会・北九州設立準備の報道）。</p> <p>#北九州文化懇話会三月例会 中島順一講演「平野遼－その生涯と作品」（3月24日 於：西日本新聞北九州支社）。</p> <p>▼西日本新聞7月1日 鎌田浩二「ざっくばらん ものづくりの街に誇りを「創を考える会・北九州」「理事 築城則子さん」（NPO設立、活動等インタビュー）。</p> <p>■大庭三紀編『平野遼記念美術館設立へ向けて』特定非営利活動法人 平野遼記念美術館 清原雅彦、2004年10月（合計50頁）、カラー図版「自画像」（油彩1955年）、「昼と夜と」他33点、白黒図版「青い雪どけ」「H氏像」他5点、作詩「歩く人」「深夜に」他4作品掲載。清原雅人、松永伍一、森秀人、林紀一郎、平野清子他合計26名の文章掲載。</p> <p>*平野遼アトリエ所蔵作品調査（主催：北九州市企画政策室 7.27～9.10（内19日間）アトリエ蔵油彩画（完成作品92点、未完成作品287点、合計379点）調査。</p> <p>□「1987/6.6－6.28 平野遼の世界展」『カタログ 北九州市立美術館の歩み』（北九州市立美術館、2004年10月）pp.177-178掲載。</p>	<p>西日本新聞9月5日「地元愛好家所有の69点並べ「平野遼展」始まる 記念美術館設立へ盛り上げ」</p> <p>読売新聞9月10日「2会場で平野遼作品展 小倉北 油彩、水彩など計69点 常設展示館整備を盛り上げ」</p> <p>西日本新聞3月26日「平野遼氏の生涯語る 市立美術館中島副館長が講演 北九州文化懇話会例会」</p>
2005	<p>1 冬の常設展（1.8～3.27 北九州市立美術館・北九州テーマコーナー「北九州を美術する」）「門司港停車場」（油彩1点）展示。</p>	

平成 17	2 所蔵品による戦後日本の美術（2.9～3.21 下関市立美術館・下関 同時開催「戦後美術と下関」）「凍土」（油彩1点）展示。	
	3 私を見つめる私の眼 70人の自画像と作品（3.12～6.12 笠間日動美術館・笠間）「自画像」「風景」（油彩2点）展示。	
	4 ◎RH+ 素顔の平野遼展－生きている絵画 創造と修復－（主催：特定非営利活動法人創を考える会・北九州 4.1～4.9 小倉井筒屋新館9階パステルホール・北九州）「自画像」（1955年北九州市立美術館蔵）、「青い雪どけ」「凍土」（下関市立美術館蔵）、「深呼吸する線」他（油彩17点）、「歩く人」（1975年）、「M眼科にて」「南仏風景」他（水彩・素描26点）、「梅」「馬」他（水墨3点）、合計49点展示。イーゼル、パレット等作家遺品展示。	<p>毎日新聞3月31日 古川修司「素顔の平野遼展」 西日本新聞3月31日「画家・平野遼の新たな魅力探る」図版「バス停の女学生たち」 毎日新聞4月1日「素顔の平野遼展」 読売新聞4月1日「平野遼氏の作品展」図版「自転車の女」。 朝日新聞4月2日「平野遼氏の素顔に迫る」 NHK 総合テレビ4月2日「北九州ミュージアムナビ」『なんしょ～ん北九州』 TNC 西日本ニュース4月2日 NHK 総合テレビ4月4日『ぐるっと8県 九州沖縄』</p>
	<p>常設展I（4.2～7.31 北九州市立美術館・北九州 郷土作家コーナー）「歩行者」「裸形の風景」「形体」（1985年）、「解体」（1985年）油彩4点展示。 #素顔の平野遼展－生きている絵画 創造と修復－講演「絵画修復の現在－平野遼作品を中心に－」（4月2日 講師：山領まり 主催：北九州市 会場：小倉井筒屋新館9階パステルホールロビー）</p>	
	6 ◎平野遼展～1960年代の作品を中心に～油彩・水彩・素描（6.1～6.12 足立山麓ギャラリー・北九州）「冬の公園」「ふたり」他、油彩・水彩・素描、約20点展示販売。	
	<p>◎平野遼展－人物・抽象（主催：特定非営利活動法人 平野遼記念美術館、6.28～7.10 ディーキューブギャラリー・北九州）「自像」「亡びゆく寓話」「女の貌」「祓い」「夜の街」「内藤氏像」「ギリシャの朝」他（油彩11点）、『まぼろしの天使』『虹いろの馬車』『魔法のパテレン』他（表紙絵11点）、合計22点展示。 #平野遼記念美術館設立へ向けて発起人の集い（6月28日 主催：特定非営利活動法人平野遼記念美術館 会場：東京第一ホテル小倉ダイヤモンドホール）開催。</p>	
	8 街じゅうアート in 北九州 2005 生鮮アート（8.18～8.30 小倉井筒屋他・北九州）40名の作家に選ばれ「異国の群像」「売る女」「異国の路上」（油彩3点）、「生鮮を売る人」（水彩1点）合計4点、小倉井筒屋に展示。	

		<p>*「像」(1950年油彩)、「深呼吸する線」(1992年油彩)、3月修復完了。「異国の群像」(1989~1990年油彩)8月修復完了。(修復:山領絵画修復工房・武蔵野、主催:平野清子 協賛:特定非営利活動法人 創を考える会・北九州)</p> <p>◇2005年5月、絵葉書(9枚1組、人物画他ペン画)を平野清子の依頼により制作・販売(みずのわ出版)。</p> <p>□「特集 大切な人に宛てた手紙」(カラー図版(書簡2通)平野遼→平野清子(1951年夏)、平野清子→平野遼(霜月三日) pp.72~75)『SWITCH』Vol.23No.12、(株)スイッチ・パブリッシング、2005年11月20日。</p>
2006 平成 18	1 3 5 8 9 10 11 12	<p>所蔵品展(1.4~1.22 下関市立美術館・下関 画家のデッサン)「自像」「群像」(ペン2点)、「果樹園で見た女」他(水彩3点)合計5点展示。</p> <p>所蔵品展(3.7~4.16 下関市立美術館・下関 近現代の洋画)「重い白(シシフォス)」(油彩1点)展示。エピソードで綴る C夫人肖像画(3.19~4.9 笠間日動美術館・笠間)「日動サロンにて H夫人」(水彩1点)展示。</p> <p>#平野遼アトリエ公開(5月13日 主催:特定非営利活動法人 創を考える会・北九州 会場:平野清子宅)。</p> <p>街じゅうアート in 北九州 2006 音楽~Muse&amp;Music~聴こえてくるアート 見えてくる音楽(主催:特定非営利活動法人 創を考える会・北九州 8.8~8.28 北九州市内合計6会場)中、「インフォメーションスペース&amp;平野遼展示会」(会場:旧門司三井倶楽部)にて、「コレリウム アウレム合奏団」(油彩1点)、「(仮題)指揮者」「ノートルダム寺院にて」「舞踏」他(水彩6点)、「サバリッシュ氏」「B.S氏(テレビより)」(素描2点)合計10点展示。</p> <p>#田川市美術館 夜の美術館 講演「平野遼の“闇”に迫るー思想と生活ー」(9月19日 主催・会場:田川市美術館 講師:花田伸一)。</p> <p>◎平野遼作品展(主催:特定非営利活動法人 創を考える会・北九州 協力:S氏コレクション 10.18~11.18 西日本工業倶楽部)「疾走する馬」「遠い形'92」「S氏肖像」他(油彩6点)、「自画像」(1952年)、「ギリシャの娘」他(水彩・素描6点)合計12点展示。</p> <p>国立美術館巡回展 名作と出会うー洋画・日本画・工芸・彫刻(主催:京都国立近代美術館、石橋財団石橋美術館他 11.3~12.17 石橋財団石橋美術館・久留米、第3章 戦後美術の展開)「朝」油彩1点展示。</p> <p>特選絵画展(12.21~12.31 カジキ美術画廊・北九州)の出品作家に平野遼が選ばれ作品展示(織田広喜・伊東深水・堅山南風他)。</p> <p>*4月20日、「どこへ行くか」(水彩、1980年)1点、平野清子より寄贈、受入登録完了(石橋財団石橋美術館)。</p>



		<p>□松永伍一「薄明の祭場－平野遼」『讃歌－美に殉じた人びとへ』（玲風書房、2006年9月。初出：『平野遼の世界展』北九州市美術館、1987年） pp.231～244 カラー口絵「壁」（油彩1972年）掲載。</p> <p>□『国立美術館巡回展 名作と出会う－洋画・日本画・工芸・彫刻』（京都国立近代美術館、石橋財団石橋美術館、2006年11月）カラー図版「朝」（油彩1991年、p78）。</p> <p>*「漁婦たち ナザレにて」（油彩1点）、11月修復完了（修復：山領絵画修復工房、主催：平野清子 協賛：特定非営利活動法人 創を考える会・北九州）。</p>	
2007 平成 19	1 2 3 4 7 9	<p>所藏品展（1.27～3.25 下関市立美術館 香月泰男と山口県ゆかりの画家たち）「重い白（シシフォス）」（油彩1点）展示。</p> <p>北九州をめぐるアート展 企業・個人コレクションより（主催：北九州市 企画：特定非営利活動法人 創を考える会・北九州 2.10～3.4 北九州市立美術館分館・北九州）「球を運ぶ」（1955年）、「土偶」「青い雪どけ」「鳥」（1961年）、「サマルカンド」（1979年）、「自像」（1982年）他（油彩12点）、「深夜の空間」（1966年蠟画1点）、「パリのアイスクリーム売り」「立像」（1983年）（水彩2点）、「蝶の春」「自像」（1991年）他（ペン8点）作品合計計23点展示。「平野遼アトリエ再現」イーゼル、白いキャンパス等展示。</p> <p>小さな絵画 ～西本コレクションから（3.27～6.10 福岡市美術館・福岡）「麻里像」（油彩）他展示。</p> <p>◎平野遼没後15年記念展（その1）（4.3～7.29 財団法人井後記念陽山美術館・鹿児島）「桜島」（1980年油彩）他展示。 日本の近代洋画・所蔵名品選～岸田劉生から香月泰男まで～（4.24～5.20 下関市立美術館・下関）「重い白（シシフォス）」（油彩1点）展示。</p> <p>コレクションによる旅 美術街道十三次（7.15～9.17 石橋財団石橋美術館・久留米）「朝」（1991年油彩1点）展示。 ◎平野遼没後15年記念展（その2・小品展）（7.31～11.31 財団法人井後記念陽山美術館・鹿児島）「パリにて」（水彩）他展示。</p> <p>今月の逸品展（9.19～30 足立山麓ギャラリー・北九州）「木のある風景」「自転車の人」「婦農」（油彩3点）、「語る人々」（ペン1点）、合計4点展示即売。 秋の常設展示（9.24～11.25 石橋美術館・久留米）「膨張する人」「どこへ行くか」（水彩合計2点）展示。</p>	<p>□「福岡市美のコレクション傷ついた過去を取り戻す「自分探し」のコレクション 西本コレクション」『エスプラナード』No.147、福岡市美術館、2007年4月、p6 カラー図版「焦土の眼」（1960年油彩）</p> <p>南日本新聞8月22日（文化）「見せたい逸品 陽山美術館 平野遼没後15年記念展」カラー図版「群像」（油彩1点）</p>

- 10 創業 80 周年記念 第 38 回日動展 (10.11~10.22 日動画廊・東京 特別陳列・物故作家名品) 物故作家 45 名の内に選ばれ「樹のある風景」油彩 1 点展示。
- ◎没後 15 年 平野遼展 (主催:「没後 15 年 平野遼展」実行委員会 10.31~11.4 小倉井筒屋新館 9 階パステルホール・北九州 同時開催「第 36 回現代洋画展」)「像」「灯台」「苦悶」「陶酔の時」「漁婦たち ナザレにて」、「青い雪どけ」(個人蔵) 他 (油彩 24 点)、「(仮題) 騎馬の女」他 (アクリルボード画 3 点)、「修羅」「岩石と群像」「歩く女 (風女)」「歩く人」他 (水彩・ペン・素描 37 点)、「広場にて」「モロッコの群像」(墨画屏風 2 点)、唐津焼絵付陶器 (11 点) 合計 77 点、及び生前愛用品 (茶碗 2 点) 展示。
- ◎平野遼展 (主催:小倉井筒屋 10.31~11.4 小倉井筒屋新館 9 階ロビー)「群像」(1971 年)「夜の肖像」(1972 年) 他 (油彩 14 点)、「肥後椿」(1977 年)「手相見を囲む群れ」他(水彩・素描 42 点)、合計 56 点展示販売。
- 「北九州が生んだ画家 没後 15 年平野遼展」『リセット 北九州』vol.33、(株)リセット出版、10 月 26 日発行、カラー図版「自画像」「漁婦たちナザレにて」「歩く人」アクリル画 2 点。
- 「没後 15 年平野遼展」『スマイル通信』No.178、株式会社井筒屋、11 月号 カラー図版「自画像」「ナザレの漁婦たち」
- 毎日新聞 10 月 30 日 (北九州版) 長谷川容子「「魂の画家」平野遼さん きょうから回顧展」白黒写真「陶酔の時」など飾り付けが進む会場
- 西日本新聞 11 月 2 日 (学芸・芸術) 平原奈央子「展覧会没後 15 年平野遼展「内」を凝視して」白黒図版「陶酔の時」(油彩 1 点)
- 11 所蔵品展 近・現代の絵画 (11.13~2008.1.14 下関市立美術館・下関 「現代-70 年代~80 年代」)「熱帯の朝」(油彩 1 点) 展示。
- ◎特別展示/没後 15 年 平野遼展 (主催:日動画廊 後援:(財)西日本文化協会 11.16~11.23 会場:福岡トヨタビル・スカラエスパシオ 同時開催「第 36 回現代洋画展」)「午睡」(1972 年)、「ポルトガルの女たち」(1988 年)、「枯木のある風景」、他(油彩 30 点)、「ロバと行く老人」「ナザレの女」他 (水彩 11 点) 合計 40 点展示販売。「自画像」(油彩 1 点) パレット (作家アトリエ蔵) 展示。
- 木原千佳「肖像-第 6 回 平野清子」『coyote』No.21、pp.202-203、(株)スイッチ・パブリッシング、平成 19 年 9 月 10 日発行。
- 川口美保「平野遼の仕事、その究極の詩」『SWITCH』Vol.25No.10、(株)スイッチ・パブリッシング、2007 年 9 月 20 日 pp.134-135 カラー図版「祓い」「爆発」「像」(油彩 3 点)、「歩く人」(ペン・水彩 1 点)、白黒図版:アトリエ風景、作品合計 4 点掲載。
- 濱本聰「所蔵品余談 筆を擱くとき」『潮流』No.92 (下関市立美術館、2007 年 10 月) p 8、白黒図版「重い白 (シシフォス)」「加筆前と加筆後 (油彩) 1 点 (2 図) 掲載。

	<p>◇絵葉書「没後15年 平野遼展」出品作品（「花の生气」「歩く人」（油彩2点）、「作品A」「作品B」（水彩2点）、「パリにて（リリアン）」「馬を洗う女」（素描2点）、「無題」「像」（油彩・アクリル板2点）、合計8枚制作販売（春高デザイン）。</p> <p>■『没後15年 平野遼展』発行：平野清子、10月31日（合計54頁）巻頭エッセイ：山根康愛「平野遼さんの思い出」、黒岩恭介「平野遼詩魂もてる画家」、花田伸一「平野遼の一日」。カラー図版「像」（1950年）「陶酔の時」「漁婦たち ナザレにて」他（油彩11点）、「奇術師」「生誕」「歩く人」（水彩・素描3点）、「モロッコの群像」他（水墨1組2点）、白黒図版「花の生气」他（油彩28点）、「洗濯する女」「凍る花」他（水彩・素描23点）、「広場にて」他（水墨1組2点）、生前愛用品他（合計56点）掲載。</p> <p>□『館報55号（2006年度）』（石橋財団ブリジストン美術館・石橋財団石橋美術館、2007年12月）「新収蔵作品」pp.74-75 図版「朝」（油彩1点）、「膨張する人」「どこへ行くか」（水彩2点）合計3点掲載。</p> <p>◇「2008 CALENDER—平野遼・まなざしの行方—」（北九州商工会議所 プロデュース：特定非営利活動法人創を考える会・北九州）カラー図版；1月（無題）、2月「夜の部屋」、3月「女二人」、4月（無題）、5月（坐る男）、6月「蝶のいる」、7月「ニュースの朝の海」、8月（唐津の海岸）、9月「ロンドンにて」、10月（無題）、11月「家樹」、12月「TANGA 市場にて」（水彩・素描12点）制作配布。</p>	<p>毎日新聞12月7日（福岡 EBENT ワイド TOPICS「カレンダー選びの季節ですね」）松田幸恵「画家没後15年に商工会議所 平野遼まなざしの行方」白黒図版「没後15年を記念し製作された平野遼さんのカレンダー」</p>
--	---	---

#### 4. 謝辞

本稿を執筆するにあたり、ご教示・ご協力を賜りました各団体や関係者の方々、石橋財団石橋美術館、大分県立芸術会館、財団法人 池田20世紀美術館、財団法人日動美術財団 笠間日動美術館、下関市立美術館、田川市美術館、特定非営利活動法人 創を考える会・北九州、花田伸一、濱本聰、平野清子、三満田巧（敬称略、50音順に掲載）に対しまして、記して深甚の謝意を表します。